

先生はいつも温い、すべての人をつつむような広いヒューマニズムを持って居られた。どんな時にも接する者に暖かいおぎをかけて下さった。そして先生の暖かい愛情をふんだんに受けた者は、日本中の幼児であり、また幼児保育者であったと思う。いま、あの先生の温顔に接することができなくなったとは、わたくしはどうしても思えないのであるが、先生の暖かいヒューマニズムが全幼児保育者の心にしみとおっていることを思えば、先生は永遠に幼児保育の中に、また幼児保育者たちの心の中に生きていて下さるのである。そして先生を永遠に生かす道は、お互い幼児保育者が保育の道を常に精進と研究とを以て高めて行くことにあると思う。

倉橋先生を偲んで

山 村 き よ

日本の子供達のために多くの幸福を与えて下さった倉橋先生。

子供達と一緒に生活することの幸福を教えて下さった倉橋先生。

日本の国の隅々にまで真の幼児教育理論を滲透させて下さった倉橋先生はフレーベル先生の誕生日、四月二十一日に突然御他界になりました。

故倉橋先生も又日本のフレーベル先生として、いつまでもいつまでも日本の子供達のためによい幼児教育者を世の中に送って下さるように、きっと幼児教育の神様として私共幼児教育関係者はいつまでも慕いすることだと思えます。

先生は私共卒業生のためには仕事の上にも又個人的にもほんとによいお父様であったことをいろいろと想い出させて下さいます。私が最後にお目にかかりましたのは四月三日の夕方、丁度クラスの者五、六名で（東京在住の）卒業して満三十年を越えた記念の会合でもちたいと相談の会合を終って、その時には是非倉橋先生御夫婦の御出席をお願いしたいものと夕方時間を忘れて参上したのでしたが、今から想えば何か虫が知らせたとも云うのか？……不思議な感情でお別れしてしまいました。それは、私共が夕方時間を遠慮がちにお話するのを「まあまあ」と引きとめて下さった、こと更なつかしんで下さって、始終笑いをうかべて私共の話をきいて下さったり、帰えりがけにはクラスの一昨年若

い市橋さんに両手をとられて静かに、静かに足を運ばれながら玄關まで御見送り下さったことです。しかも私共の姿が玄關から門外に出るまで戸をしめてはいけないうと奥様お指図されて……にこにこ笑顔で見送って下さる先生のお顔をふりかえりながら、三つ四つの子供がするように「バイバイ」しながら……私共は最後には後むきになってお別れをなつかしみながらあの中野のお宅のお玄關から御門までの間をあんなにも後髪ひかれる想いで辞してきたことがふしぎ想われて、今更のように先生のお姿を偲んで居ります。

今から三十二年前関東大震災の後お茶の水のバラック校舎で吸いこまれるようにきき入った先生のお講義の中の言葉は今も尙はつきり耳にのこって居ります。

「自発活動の尊重」

「子供の興味の問題」

「自由保育に流す、生活を、生活で、生活させる根本精神」等々

今私共が目の前の子供の姿をいろいろの角度から「親切」にみつめることができるのはほんとに先生のおかげだと思います。私ばかりでなく全国いたるところに先生のお教をうけた幾多の幼児教育関係者の方々がいつもいつもこうした先生のお言葉の数々を想い出されて、それぞれのお仕事に、「光と力」をうけてほとんどの幼児教育のために自重してゆかれるの

ではないでしょうか？ おそらく日本中の幼児教育関係者はあまりにも突如として逝かれた倉橋先生のお姿を今更の如くあれこれと偲んで偉大なる御功績をたたえて居られることと 생각합니다。

(東京文京第一幼稚園長)

倉橋先生と私

和田 信 蔵

先生には殊の外親しくしていただき、度々温顔に接して御導きを賜った私としては、数々の思い出を持っているが、その中の二三を追憶して見たいと思う。

先生と私との関係は二十二年前より続けられていたが、始めて御親交を得た当時、私自身大学出たての幼稚園長であつたし、何かと先生の御教導をうる機会を求めていた時期でもあつた。

丁度その頃、大阪の私立幼稚園関係者が幼児教育振興のた